

テクノメタル  
環境報告書 **2023**

---

# 目 次

ご挨拶	.....	2
会社概要	.....	3
環境マネジメント	.....	4
地球温暖化防止	.....	5
廃棄物の削減	.....	7
有害物質の管理	.....	8
事業活動の環境負荷	.....	9
環境保全、地域社会及び社員との共生	.....	10



## テクノメタルは ネットゼロ(カーボンニュートラル)に 貢献できる企業に！

— *Challenge the Impossible* —



代表取締役社長

### 環境基本方針

当社は、天然資源やエネルギーを多く消費する企業であり、自然環境の保護・保全が地域環境はもとよりグローバルな重要課題であることを認識し、環境改善と地域との共生を推進します。

現在の日本経済を取り巻く環境は、ウクライナ情勢によるサプライチェーン寸断リスクの高まりや、円安、原材料・エネルギー価格の高騰、人手不足、そのほか脱炭素社会に向けた国際的気運の強まりなど、製造業を取り巻く環境はこの1年で大きく変化しました。今後、製造業が取り組むべき重要な課題として、サプライチェーンの強靱化と原材料の調達など生産能力の安定的な確保、省人化自動化による生産性の向上と省エネ化などがあげられます。そのためには、DX(デジタル・トランスフォーメーション)に向けた投資の拡大とイノベーションの推進が鍵を握り、それがGX(グリーン・トランスフォーメーション)実現に必要不可欠と感じております。

環境面では、「気候変動」、さらに「生物多様性の損失」、「汚染」という3つの世界的な危機に加え「エネルギー危機」という問題も勃発しており、気候変動対策をおこないながらもエネルギー安全保障対策も実施することが求められています。2023年度は日本が議長国となり「G7サミット(主要国首脳会議)」が開催されました。「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」では、NDC及び長期戦略が「1.5°C目標」および「2050年ネットゼロ(カーボンニュートラル)」に向け、取り組みを加速していくことが呼びかけられました。経済成長とエネルギー安全保障を確保しながら、ネットゼロの実現に向けたGX進めていこうという強いメッセージが打ち出されました。経済成長との両立を図るうえで、革新技術の開発・普及のためのイノベーションが不可欠であり、日本の産業技術の向上にもつながるものと考えます。

これらに対し、当社は全員で考え 努力・挑戦・改善を迅速におこない、ネットゼロの目標実現に向け貢献していきます。

# 会社概要

社 名 テクノメタル株式会社

所 在 地 本社・二本松工場 福島県二本松市高田100番地  
北本工場 埼玉県北本市古市場1丁目100番地

設 立 1971年5月20日

資 本 金 2,530百万円

株 主 合同会社ジェイ・ヴィ・オー、三菱重工エンジン&ターボチャージャー株式会社

従業員数 674名(2023年10月1日現在)

事業内容 自動車・建設機械・産業機械用 各種鋳造、鍛造及びアルミダイカスト部品の製造、販売 及び 機械加工、サブアッセンブリ

## 主要顧客

三菱ふそうトラック・バス株式会社	パーキンスジャパン合同会社	井関農機株式会社
三菱重工業株式会社	株式会社小松製作所	住金物産株式会社
三菱重工業エンジン&ターボチャージャー株式会社	東京ファブリック工業株式会社	日産工機株式会社
三菱ロジスネクスト株式会社	UDトラック株式会社	株式会社クボタ
日野自動車株式会社	アイシン高丘株式会社	ファナック株式会社
三菱自動車工業株式会社	浅井ショーワ株式会社	センクシア株式会社
カヤバ株式会社	日産自動車株式会社	

## 沿 革

1970年06月	三菱重工業(株)から三菱自動車工業(株)が分離
1971年05月	三菱自動車工業(株)の全額出資により「東北三菱自動車部品(株)」として設立
1981年04月	東菱機工(株)を吸収合併し北本工場とする
1992年10月	社名を「三菱自動車テクノメタル(株)」と改称
2003年01月	三菱ふそうトラック・バス(株)が三菱自動車工業(株)から当社株式を継承
2003年03月	ISO14001(環境)認証を取得
2003年10月	社名を「三菱ふそうテクノメタル(株)」と改称
2004年06月	ISO9001(品質)認証を取得
2006年02月	旭テック(株)が筆頭株主となる。社名を「テクノメタル(株)」と改称
2007年05月	ISO/TS16949(品質-自動車)認証を取得
2007年08月	旭テック(株)が当社株式を100%取得
2015年06月	Amtek Auto社が当社株式を100%取得
2017年11月	テクノメタル(タイランド)社を子会社化 三菱重工エンジン&ターボチャージャー(株)が当社株式の3.3%を取得
2018年05月	ISO/TS16949がIATF16949へ移行、認証取得
2022年03月	合同会社ジェイ・ヴィ・オーが当社株式の96.7%を取得

## ■環境管理 2022年度活動目標と実績

2022年度環境改善活動結果について、以下に示します。

エネルギー使用量削減は、目標をほぼ満足する結果が得られています。また、法令順守については、大気、水質、騒音等の規制値順守を含め適正であることを確認しました。

活動項目	目標	実績	評価 ※	2023年度活動目標
1. 天然資源の有効活用 〔1〕エネルギーの有効活用 エネルギー使用量削減	2022年度エネルギー使用量計画の1%削減を目標に活動 ・二本松工場 462.2kℓ ・北本工場 17.8kℓ	・二本松工場 506.3kℓ ・北本工場 16.2kℓ	○	エネルギー原単位実績により得られる2023年のエネルギー使用計画量の1%低減を目標として活動
〔2〕荷主に係わる省エネ	目標≤28.20kℓ/百万トンキロ	28.17kℓ/百万トンキロ	◎	2022年度目標の継続
2. ゼロエミッションの実現 埋立処分率低減 再資源化率向上	二本松工場 ・埋立処分率≤0.26% ・再資源化率≥98.73% 北本工場は維持管理	二本松工場 ・埋立0.25% ・再資源98.62%	○	2022年度目標への再挑戦
3. 環境改善 〔1〕法令順守	順守率100%	・法令違反なし ・排出規制値順守良好	○	順守率100% 法令改正確認の徹底
〔2〕公害未然予防	・粉じん飛散対策 ・油・濁水流出防止 ・騒音規制の遵守	・粉塵洩れ対策と管理 ・鑄造仕上工場天井ファン ネット改善/効果 ・水処理施設の油脂類流出 防止改善 ・コンプレッサー室等の騒音 対策	○	・粉じん飛散低減 ・油・濁水流出防止 ・騒音規制値の順守
4. 有害物質の 使用量低減	・化学製品のリスクアセスメント 実施 ・有害化学物質含有資材 の代替え推進	・新規化学物質リスクアセスメント 実施 ・PRTR報告対象製品の代替 え化	○	・化学製品のリスクアセスメント 実施 ・有害化学物質含有資材 の代替え推進
5. 環境配慮製品開発、 設備計画の実施	・環境に配慮した製品及び 生産工程の構築	・製造工程設計時の環境配 慮折込 ・設備等計画、工事施工時の 環境影響評価を実施し、著し い影響項目なし	○	・環境に配慮した製品及 び生産工程の構築
6. 社会貢献、 地域社会との共生	・地域活動参加 ・工場周囲環境点検 ・地域活動への協賛 ・地域住民、社員家族対象 イベント開催	・クリーンアップ作戦 ・剣道大会 ・外構点検 ・緑地・遊歩道開放	○	・社会貢献活動の計画と 実施

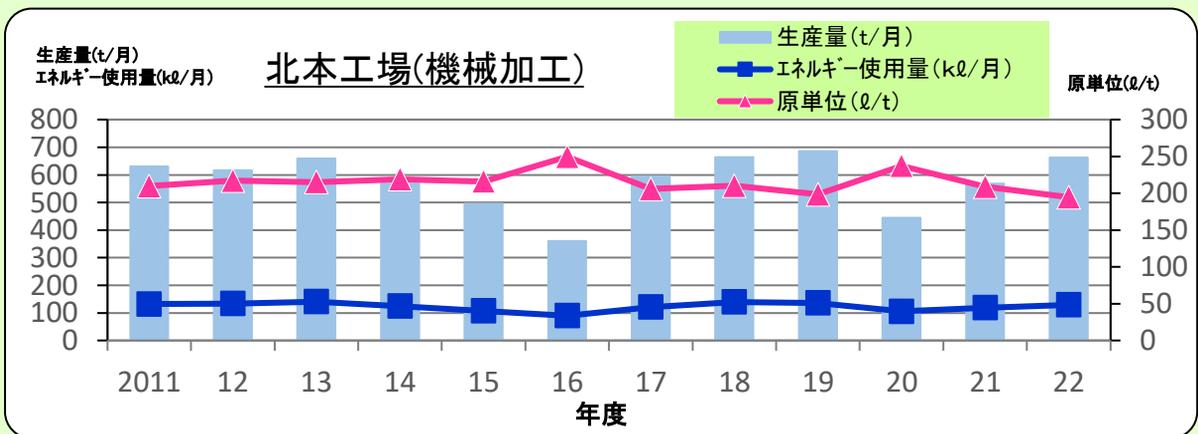
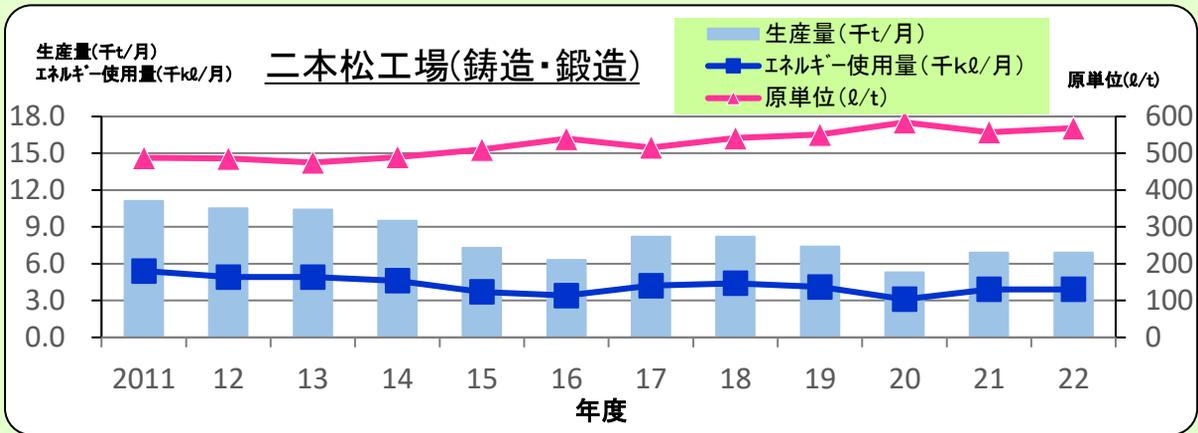
※ 弊社「環境目的・目標マネジメントプログラム」評価基準による



## ■省エネルギーの推進

当社は、鋳造、鍛造メーカーとして多くの電力や燃料を消費しており、また二本松工場では2017年以降、製品の付加価値を上げるため、加工を取込み事業を拡大しております。省エネ及びCO<sub>2</sub>の排出抑制を環境改善活動の重要テーマとして取組んでいます。

### ◆エネルギー使用量、原単位の推移



### ◆CO<sub>2</sub>排出量と原単位の推移



## ◆製品輸送等に関わる省エネ活動

輸送業者及び顧客と連携して、直送化、加工付受注、アイドリングストップ活動、及びデジタコによる燃費管理推進等の活動を実施しています。



対象エネルギー：製品関係の輸送用燃料  
産業廃棄物関係の輸送用燃料

## ◆省エネ活動の推進

23. 2月の省エネルギー一月間では、ゼロカーボンアクション30への取り組みとして各自で出来る脱炭素活動に取り組んでもらう活動を行いました。  
また、毎年2月と8月には省エネ意識向上を目的とした省エネ点検やエアリーク点検を行っています。



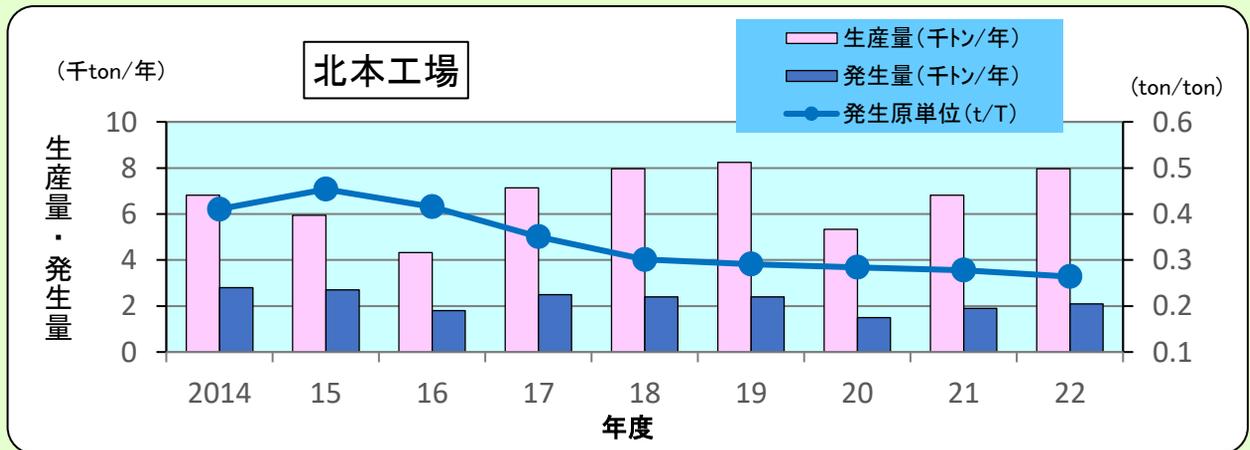
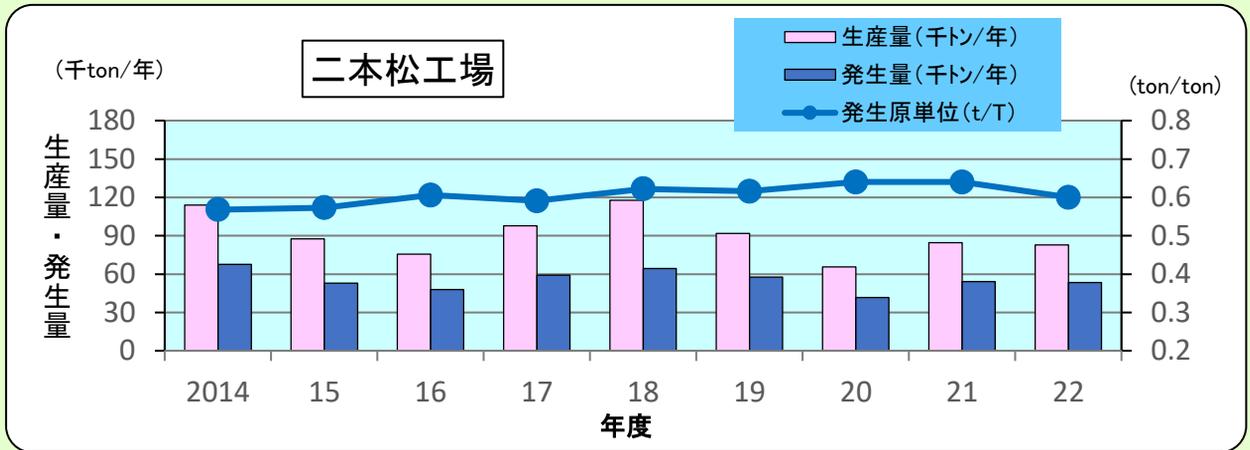
啓蒙活動ポスター



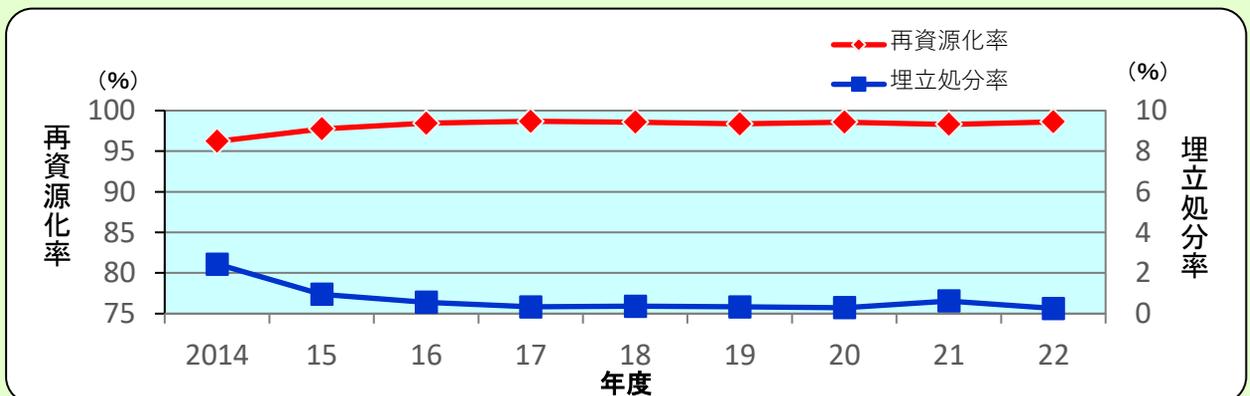
## ■ 廃棄物発生量の低減

生産活動ではさまざまな種類の廃棄物が発生します。当社では、廃棄物も貴重な資源と考え、廃棄物の再資源化利用や有価物化を目指す活動しています。具体的には、中子砂の再利用率の拡大や脱水汚泥の再資源化などに取り組んでいます。

### ◆ 生産量と廃棄物発生量の推移



### ◆ 再資源化率と埋立処分率の推移(二本松工場)



## ■PCB(ポリ塩化ビフェニルの管理)

二本松工場ではPCBを含む使用済みコンデンサー類を保管しており、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に定める基準により適切に処分、保管・管理をしています。現在使用中の物を含め、定められた期限内の処置を進めていきます。

### ◆ PCB保管状況

リアクトル	保存数量	二本松工場	8台
	使用設置数量	二本松工場	8台
トランス	保管数量	二本松工場	0台
	使用設置数量	二本松工場	6台

## ■PRTR

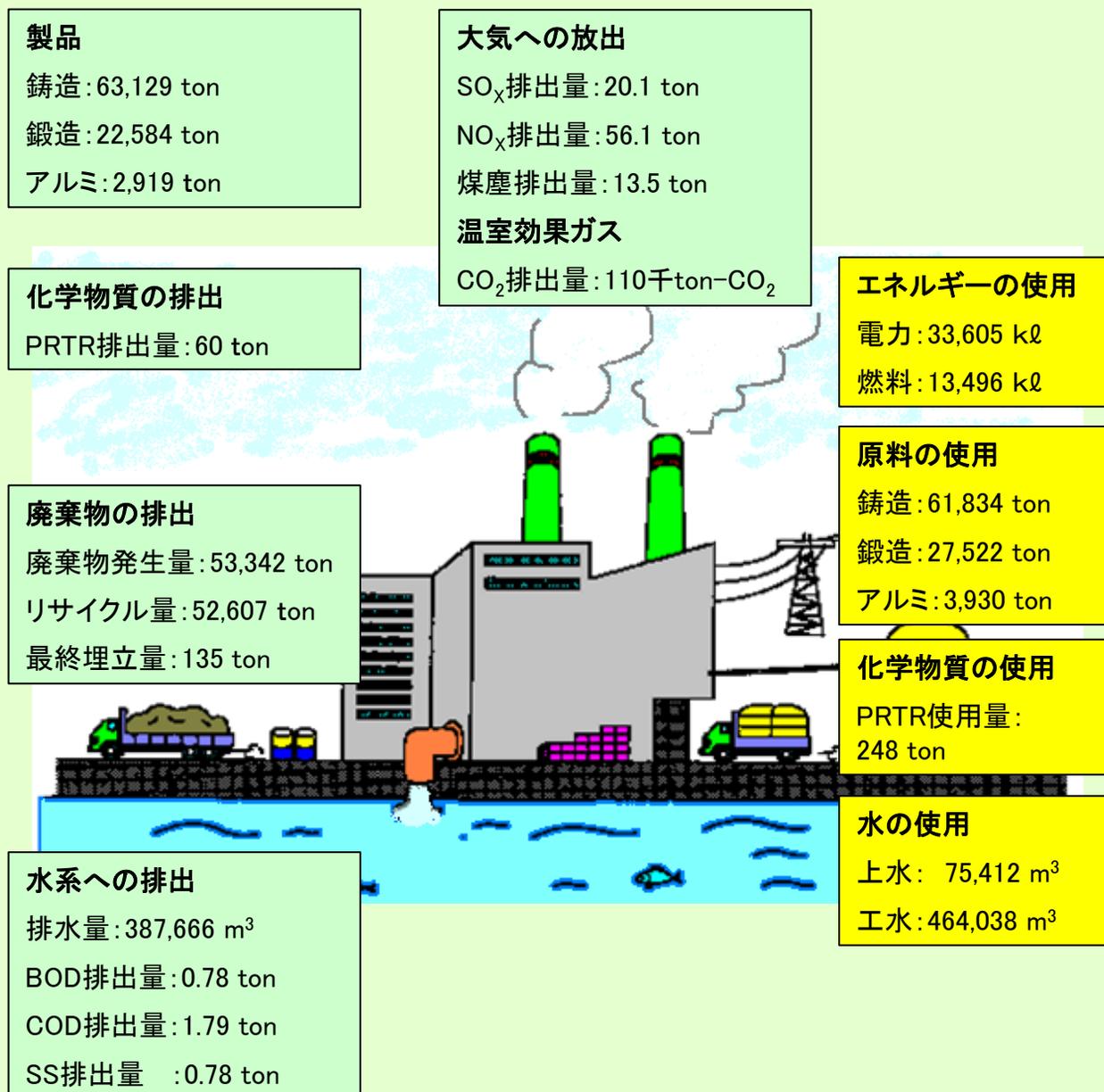
二本松、北本両工場は、PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)に基づく、指定化学物質の排出・移動量の報告義務を有し、その結果を各県知事に報告、届出しています。

# 事業活動の環境負荷

## ■環境負荷の状況(二本松工場)

当社では、鑄造、鍛造事業の生産活動に使用される、エネルギーや原材料、水、化学製品等のインプットと、製造過程で発生する廃棄物や排水、化学物質の排出量等のアウトプットを定量化、管理し、環境負荷低減活動に活用しています。

以下に2022年度の環境負荷を示します。



## ■環境保全活動

環境保全委員会の活動を通して、環境改善・環境保全を継続的に進め、「環境にやさしい企業」を心掛けています。

### ◆構内緑化活動

二本松工場、北本工場ともに構内は多くの樹木が植えられ、目で四季を感じられます。2022年度には二本松工場ではハナミズキの苗木20本を植栽しました。

### ◆環境月間行事

毎年6月の環境月間に合わせ、環境に対する意識高揚を図っています。

#### 【環境月間行事】

- ・ 環境点検の実施
- ・ 周辺道路のクリーンアップ作戦の実施
- ・ 環境改善提案提出推進月間

### ◆工場周辺の環境整備

毎年2回、工場周辺の環境点検、ごみ拾いを行っています。また、草刈りや樹木の剪定も定期的に行い、環境整備に努めています。



## ■ステークホルダーとの交流・貢献活動

### ◆二本松工場北側緑地解放デー

二本松工場北側の緑地は、4月になるとソメイヨシノやシダレザクラ、レンギョウ、ハナモモなどが満開の花を咲かせます。草花が見頃を迎えるこの時季に、近隣住民の方々などに遊歩道の自由散策や記念品の提供するイベントを開催しており、毎年多くの方々に楽しんでいただいています。



### ◆モノづくり体験デー

次世代育成支援の一環として、また家族のコミュニケーションを深めてもらうことを目的として開催しています。今年度はオリジナルのスプーンとペーパーナイフを製作し、普段なかなかできない体験に子供達は眼を輝かせていました。



### ◆工場隣接道路のクリーンアップ活動

毎年2回、高田地区協議会と共同で、工場に隣接する道路の清掃ボランティア活動を行っています。今後も地域に貢献できるよう継続していきます。



◆ 社会貢献



公園草刈・清掃活動



地域スポーツ行事への協賛及び後援



歳末助け合い募金



二本松提灯祭りへの協賛



二本松菊人形への協賛

# テクノメタル株式会社

本社・二本松工場  
北本工場

福島県二本松市高田100番地  
埼玉県北本市古市場1丁目100番地